

## ◆国際的研究施設の誘致について(リニアコライダー計画)

福岡県と佐賀県が誘致を進めている、素粒子物理学を研究するための国際研究施設が、ILC(インターナショナル・リニア・コライダー)です。

リニア・コライダーとは、直訳すると直線型の衝突型粒子加速器のことです。地下の強固な岩盤に掘られた延長31kmから50kmのトンネル内で、光の速度まで加速された電子と陽電子を正面衝突させると、宇宙の始まりの状態であるビッグバンと同様なエネルギーのかたまりが生み出され、様々な粒子が噴出します。

このことから、どの様にして、なぜ宇宙が生まれ、物質が生まれ、そして人が生まれたのかといった、人類の長年の謎の解明に望むのがリニア・コライダー計画です。

リニア・コライダーの建設費は約8,000億円と莫大なため、アジア、北米、欧州が協力し、世界にただ一つだけ作ることが研究者の間で合意されています。2012年末までに候補地毎の詳細設計書が策定される見込みです。

世界最高水準の基礎化学の「世界拠点」であり、世界でただ一つの研究施設を福岡に誘致するために質問をいたしました。

Q	研究施設の誘致と建設に於ける、国と県の役割はどの様になっているのでしょうか。
A	福岡・佐賀両県で、脊振山地の地質調査やILCを核とした国際研究都市の構想策定を進めている。 我が国への誘致、建設は気が主体。県は地質調査や国際研究都市構想を策定中であり、誘致が決まったら、生活・研究環境の整備を担う。
Q	研究施設の誘致と建設に於ける、課題や問題点はどの様なものがあるでしょうか。誘致に向けた国の姿勢は如何でしょうか。
A	ILCの国内建設、脊振への誘致を実現するためには、ILCが国家プロジェクトとして位置づけられることが必要です。国は、平成23年度第3次補正予算に、初めてILCの建設可能性を検討するための調査費を計上した。誘致に向けては、各国の政府レベルでの検討が必要である。
Q	誘致に向けた、知事の強い決意はどうでしょうか。
A	国に対して国家プロジェクトとして取り組むよう強く働きかけるとともに、関係機関との連携や県民への周知を強化するなど、受け入れ環境の醸成に努める。